# 備前市事務事業評価シート

（平成23年度事業）

## 事業の概要

| 事業開始年度 | 昭和46年度 | 根拠法令・例規等 | 備前市児童福祉年金条例 |
|---|---|---|---|
| 総合計画 大項目 | 02 健康でやさしさあふれるまちづくり | 問合先 担当課（室） | 社会福祉課 |
| 総合計画 中項目 基本施策 | 01 やさしさあふれるまちづくり | 職・氏名 | 障害者福祉係長　江見清人 |
| 総合計画 小項目 施策 | 03 障害者（児）福祉 | 電話 | 64-1824 |
| 事務事業名 | 11 児童福祉年金給付事業 | このシート作成に要した時間 | 2.5 時間 |

Plan

## 事業の目的

| | |
|---|---|
| 対象（誰・何に対して） | 市内在住の２０歳未満の者で、身体障害者のうち障害程度が５級以上の者又は知能指数がおおむね５０以下であって知的障害の状態にあると判定された方。 |
| 目的（何のために） | 心身に障害のある児童に対して年金を支給し、その児童を慰謝激励し福祉増進を図る。 |
| 事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか） | 心身に障害のある児童に対して年金を支給し、その児童を慰謝激励し福祉増進を図る。 |

Do

## 事業の実績

目的を達成するため実施した事業

| 細事業名 | 事業の説明 | 優先度 |
|---|---|---|
| 児童福祉年金給付事業 | 心身に障害をお持ちの20歳未満の児童を監護する保護者に児童福祉年金を支給する。 | ○ |

| 事業費等 | | 単位 | 平成21年度実績 | 平成22年度実績 | 平成23年度実績 |
|---|---|---|---|---|---|
| 決算額 事業費 | 直接事業費 | 千円 | 1,034 | 1,036 | 1,087 |
| | 必要人員 人件費 | | 0.02人 94 | 0.03人 298 | 0.00人 0 |
| | 事業費計 | | 1,128 | 1,334 | 1,087 |
| 財源 | 国県支出金 | 千円 | | | |
| | 受益者負担 | | | | |
| | 繰入金 | | | | |
| | 市債 | | | | |
| | その他（　） | | | | |
| | 一般財源 | | 1,128 | 1,334 | 1,087 |
| 受益者負担比率 | | % | － | － | － |

| 結果指標名 | | 単位 | 平成21年度実績 | 平成22年度実績 | 平成23年度実績 |
|---|---|---|---|---|---|
| 結果指標 児童福祉年金受給者数 | | 説明 | 児童福祉年金の受給者の数 | | |
| | 結果指標量 | 人 | 89 | 88 | 92 |
| | 対前年比 | % | － | 98.9% | 104.5% |
| | 活動コスト | 円 | 1,152,000 | 1,128,000 | 1,087,000 |
| | 単位当たりコスト | | 12,944 | 12,818 | 11,815 |

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性を評価

## 事業の成果

| 成果指標名 | 年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度目標値 |
|---|---|---|---|---|---|
| 児童福祉年金受給率 | 目標値（A） | 88 | 88 | 88 | 92 |
| | 実績値（B） | 88 | 88 | 92 | 到達目標値 |
| | 達成率（B/A） | 100.00% | 100.00% | 104.55% | 95 |

成果指標設定の考え方・式や説明

児童福祉年金受給者数/児童福祉年金支給対象者数×１００（%）

Check

## 事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜ ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください＞

### 妥当性の評価

市の関与の妥当性 / 必要性

- □ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- □ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- ■ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- □ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- □ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている

市民ニーズ

- □ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある
- □ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価（A 高いや / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い）：**C**

### 効率性の評価

コスト手段

- □ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- □ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- □ 受益者負担率は適正である
- □ 受益者負担率を見直す余地がある
- ■ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- □ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価（A 高いや / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い）：**B**

### 有効性の評価

目的達成度 / 市民参画度

- □ 成果指標の設定は適切である
- ■ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- □ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- □ 成果指標達成率は80%未満となっている
- □ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- □ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
- □ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- □ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価（A 高いや / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い）：**B**

## 進行年度（H24年度）の改革改善内容

| 状況 | 拡充 | 現状継続 | 見直し | 縮小 | 整理統合 | 休止 | 廃止・完了 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | ○ | | | | | |

説明：条例で定めた事業であり、他に変わる制度がないため必要な制度である。

## 総合評価

条例で定めた事業であり、他に変わる制度がないため必要な制度である。また年金受給率も目標値を達成できている。

総合評価（A 高いや / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い）：**B**

Action

## 平成25年度の方向性・取組目標

| 方向性 | 拡充 | 現状継続 | 見直し | 縮小 | 整理統合 | 休止 | 廃止・完了 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | ○ | | | | | |

取組目標：条例で定めた事業であり、他に変わる制度がないため現状を継続していく必要がある。